

平成25年度 病害虫発生予察情報

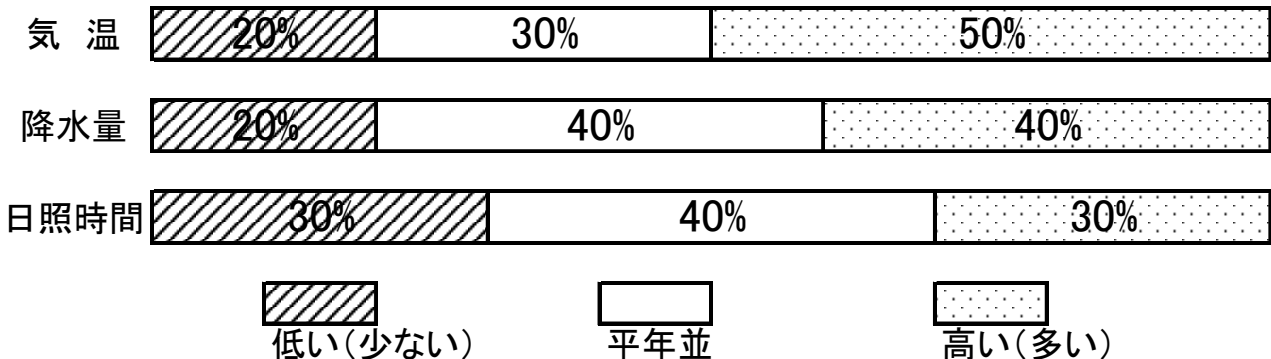
発生予報第3号（6月）

平成25年 5月28日
島 根 県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	ヒメトビウンカ	やや多い
		ニカメイチュウ	やや多い
		イネミズゾウムシ	やや少ない
果樹	ナシ	黒斑病	平年並
		黒星病	平年並～やや多い
		シンクイムシ類	平年並
		ハマキムシ類	やや少ない
		ハダニ類	少ない
野菜	カキ	カキクダアザミウマ	平年並
	タマネギ	ポトリ糸属菌による葉枯れ	少ない～やや少ない
		べと病 腐敗病・軟腐病	多い やや多い

中国地方1か月予報(5月25日～6月24日・広島地方气象台5月24日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方	県内全域
発生時期	平年並
発生量	やや多い

予報の根拠

- ① 予察灯、ネットトラップへの飛来は、5月第5半旬まで認められない。
- ② 5月下旬の払い落とし調査では、捕獲数は0.02頭/50株当り（平年0.01頭）、発生圃場率は1.92%（平年1.26%）で発生量は平年と比べてやや多い。
- ③ 4月に採集した越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は1.2%で昨年と同様に低い。
- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) ニカメイチュウ（第1世代）

予報内容

発生地方	県内全域
発生時期	平年並

発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は5月第4半旬で、5月第5半旬までの誘殺数は平年に比べてやや多い。
- ② 前年の第2世代成虫の誘殺数から越冬量は平年並みと考えられる。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は5月第2半旬で、5月第5半旬までの誘殺数は平年に比べて少ない。
- ② 前年の新成虫の誘殺数は平年比53%で、越冬量はやや少ないと考えられる。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 5月24日の巡回調査（安来地区）では、発病葉率1.2%（平年2.3%）であり、発生量は平年と比べてやや少ない。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生に助長的である。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 5月24日の巡回調査（安来地区）では、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 初飛来日は4月5日でやや早い。
- ② その後、4月中旬より気温が低く誘殺が認められなかった。
- ③ 前年のナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数は平年並み、越冬量は平年並みと考えられる。
- ④ フェロモントラップ（安来市）でのナシヒメシンクイの誘殺数は平年並みである。
- ⑤ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 初飛来日は4月6日で平年並み。
- ② その後、4月中旬より気温が低く誘殺が認められなかった。
- ③ フェロモントラップ（出雲市）でのハマキムシ類の誘殺数はやや少ない。
- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

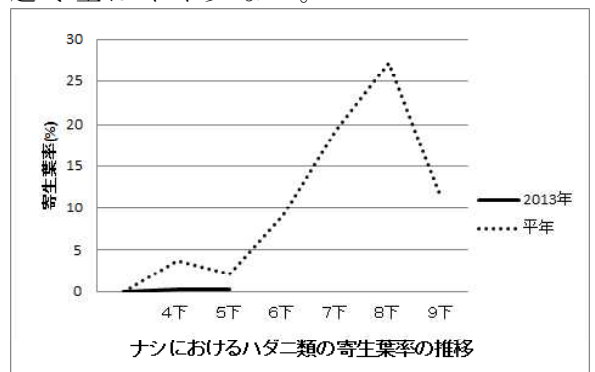
発生量 少ない

予報の根拠

① バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。

② 5月下旬の巡回調査（安来市）では主要種はクワオオハダニで葉率は0.3%（平年2.8%）と少ない。

③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。



2) カキ

(1) カキクダアザミウマ

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生時期 平年並

発生量 平年並

予報の根拠

① 5月上旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。

② 5月8日の巡回調査では巻葉被害が認められた。

③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 少ない～やや少ない

予報の根拠

① 巡回調査地点における5月下旬の発生量は、平年に比べて少ない。

② 向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) ベと病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 多い

予報の根拠

① 巡回調査地点における5月下旬の発生量は、発生圃場率88.5%（平年34.7%）、発病株率14.1%（平年5.6%）と平年に比べて多い。

② 5月2日付け注意報第1号参照。

③ 向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

① 巡回調査地点における5月下旬の発生量は、発生圃場率50.0%（平年27.5%）、発病株率0.7%（平年1.4%）と平年並である。

② 向こう1か月の気象は本病の発生に助長的である。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

独立行政法人 農薬検査所ホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農薬検査所のアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

農薬の安全使用の徹底を！

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

島根県病害虫防除所

（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp